母親教育のあり方に関する研究

ー青森県における母親教育対象者の実態ー

分担研究者　近　藤　健　文（青森県環境保健部）
研究協力者　秋　山　　有（　　〃　　）
成　田　玉　栄（　　〃　　）
佐々木　直　亮（弘前大学）
鈴　木　治　子（青森大学）

は　じ　め　に

青森県における母親教育は、公衆衛生関係領域、教育関係領域を中心に、福祉、農林水産、労働、安全、司法、地区組織関係各領域に巾ひろく実施されていることが第1年次の調査で明らかになった。これは、母親ならびに母親予備軍に対して行った集団検診や個別指導以外の健康の教育のうち、母親教育であると意識して実施したものを、とらえたものである。各領域に、母親教育がひろがったのは昭和40年以降のものが多いのであるが、各領域間では労働、司法関係の実施が極めて少なかった。また、母親教育は直接母親自身に行ったものが多く、全体的に若い年代層への働きかけが少ないこと、また男子への教育に乏しいことなどから、低年令層からの一貫した教育システムの確立が必要であること等が把握されている。

このような実態を前提として第2年次である56年度には、母親教育を受ける側の人々の母親教育を受けた結果について把握しようとし調査を行なったものであるが、事後の母親教育システム化の検討にも備えて、県内67市町村の中から、八戸市の一部地域、深浦町、十和田湖町、階上町、六ケ所村、脇野沢村の一市、三町、二村を選定した。

またこの5市町村のほか、この調査に参加を望んだ黒石保健所管内4ケ町村と、五所川原市及びむつ市の一部を含んで実施した。調査内容は、前回は母親教育の現状を平面的にとらえたのに対し、今回は母親の母、あるいは母親と子との関係を縦の面からとらえたことと、主として妊娠、出産にかかわる性の問題に焦点をおき、年代による知識の変化や母の子に対する教育等を把握して公衆衛生領域の専門的働らきかけの方向をさぐろうとした。

調査は地域の妊婦教室、母親教室、未婚者学級その他の集団指導の機会を活用し、あるいは中・高校に依頼するなどして、調査票の記入を無記名で行ったものである。提出された調査票は、既婚者は1,598人、未婚者は1,670人、計3,268人であった。

【研究成果】

I　調査対象地域、対象者の背景

1.　対象地域の母親教育

調査対象地域となった八戸市は、昭和30年代後半より、新産業都市として急激に膨張変化をとげた市であり、深浦町は西海岸、脇野沢村は下北半島北端でいづれも漁業を主とし、十和田湖町は湖と温泉の観光地をもち、六ケ所村は石油基地として開発が進捗中であり、階上町は八戸市に近接する地区の人口がふえて最近村から町になるなど、それぞれ特徴をもった市町村である。

医療機関の集中している八戸市、黒石市、五所川原市、むつ市の市部をのぞいた町村では、まだ広大な山間部に部落が点在し、古い生活習慣も残存されている。いづれの市町村においても出稼に依存する人口も多く、急激な時代の変化にもかゝわらず、基底に貧しさからの脱却をはかれない階層をかゝえている。これら5町村には、昭和40年

以降になってから地方自治法によって、保健所保健婦を町村に派遣する、いわゆる派遣制度が適用され、各町村に2名または3名の保健所保健婦が活動している。

これらの市町村での母親教育は、いづれも県全体の母親教育実施状況と同様の傾向を示していた。即ち、①母親教育は公衆衛生領域、教育関係領域を中心に行われていたこと。②他領域、殊にも労働関係領域、司法関係、安全関係領域の実施が乏しいこと。③母親教育の対象が各領域とも母親自身に集中し、青年、妊娠前の結婚者に対する教育が少ないこと。④公衆衛生関係領域の母親教育は、その調査が個別指導を除いたものであったにせよ、母親に対する出産前後の教育にかたより、その他の対象に対する教育に乏しかったこと。殊にも学童、生徒に対しては教育関係領域にゆだねていたこと。⑤これに対し教育関係領域では巾ひろい対象に実施されているが、テーマ等多分に一時的で一貫性に乏しいように見受けられたこと。⑥講義の型は講義式が多く、一方交通型教育が多かったこと。⑦各領域とも全体として性教育が乏しく、幼時から発達の諸段階に応じた母親教育が必要と考えられたこと。以上の傾向は調査対象市町村に共通の問題として浮びあがっている。

2. 対象者の年令、結婚形態

調査対象者の年令は、既婚者については50才までとしたが20才代からみられ、また誕生日を迎えたばかりの51才が2名含まれていた。未婚者については、12才から38才まであり、これを中学生、高校生、それに大学生9名を含むその他の未婚者にわけてみると、中学生は945人56.5％で、高校生は567人33.9％、その他の未婚者は158人9.4％であった。

これらの調査対象者が、結婚前に望んでいた、また望んでいる結婚形態は、既婚者では恋愛が66.6％、見合いが20.7％であったのに対し、未婚者では91.1％が恋愛で、見合いは3％にすぎなかった。この恋愛への期待は、既婚者では29才代までが80％台、40才代以上では40％台であり、未婚者においても中学生、高校生、その他の未婚者の順に、若い年代ほど恋愛を望むものが多くなっている。

親だけが決めた結婚を望んだのは、既婚者には133人、8.5％みられたが、未婚者には殆どなかった。

3. 家庭生活

恋愛を希望する未婚者が、画いている将来の家庭生活のひとつとして、炊事は自分が受けもつという回答が80.6％あり、家庭における炊事の役割は妻と考えるものが多い。

近い将来母親となる未婚者が、いま子供が好きか嫌いかについては、85.4％が好きな方と答えており、これは、中、高、その他の未婚者とも変りがない。こどもがきらいなのは3.2％あった。

子供の数については、既婚者が結婚前ほしいと思っていた数は、1人から10人までがあげられていたが、そのうち3人ほしいというのが半数を占めている。未婚者では1人から7人までがあげられ、そのうち約60％は2人であった。

結婚前に子供をほしくないと思っていたのは、既婚者は0.9％であったのに対し、未婚者では2.2％であり、こどもの好ききらいをも含めて将来の母性意識や育児態度にもかゝわることとして注目したい。

既婚者の結婚した年令は16才から40才までにわたっていたが、20才から24才までの結婚が67％を占めている。既婚者の実際のお産の回数は0人から17人までと巾があり、2回が32.9％で、お産の回数は平均1.95回であった。

Ⅱ 調査対象者の知識

1. 月　　経

月経についてはじめて聞いた年令は、既婚者では8才から22才にわたっており、小学生を12才までと考えるとその年代には59.2％、中学生を13才から15才までとみると35.4％であるが、知識の与えら

れる年令は全体として遅かったと考えられた。年令階級別にはじめて聞いた平均年令をみると、34才までの既婚者は11才台、35才から39才までは12才台、40才から49才は13才台、50才は14才台と年令の高くなるにつれて初めて聞いた年令も高くなっていた。

未婚者については、4才から16才と、既婚者に比べその時期が著しく早くなっており、中学生では4才から、高校生では5才から、その他の未婚者では9才からみられる。これを平均年令でみれば、中学生は10.61才、高校生は10.73才、その他の未婚者は11.01才で年令の低い方が早く聞いている。

未婚者に月経について教えてくれた人は、保健室の先生が最も多く48.5％、次いで母親が27.1％、友達17.6％、担任の先生8.2％、保健婦0.9％で、半数が学校教育の中で知識を得ているが、母親から教えられた者が少ないのが注目される。

月経について一番詳しく教えてくれた人は、既婚者については担任の先生が46.6％、母親、友達、養護教諭によるものがそれぞれ10％台であった。しかしこれを既婚者の年令階級別でみると、担任の先生によっている者は30才から44才までの層に多く、養護教諭から教えられたのは50才代には全くみられなかった。養護教諭から教えられたのは年代が若くなるにつれて少しづつその割合がふえている。これは青森県が養護教諭の増員に力をいれたのは昭和40年代であるため、50才の人々の年代にはまだ配置をみていなかったからと考えられ、同時に担任の先生の割合も50才代に少ないのは、当時はまだ学校保健が今のように活発でなかった時代であったからと思われる。

そして、この50代は、友達から教えられた割合が次の45才から49才までの層とともに最もその割合が高くなっており、次いで母親から教えられた30.2％は、どの年令階層よりも高い割合を示している。

未婚者について一番詳しく教えてくれた人は養護教諭で65.0％、母親が13.5％、担任の先生が10.4％、友達が6.3％で、既婚者と比べて養護教諭によるものがきわだって増えている。

一番詳しく教えてもらったその内容は何であったかについては、既婚者は「月経の手当」が57.4％、「体のしくみ」が26.8％、「男女のちがい」が10.8％、「妊娠の生理」が5.0％である。これを年代別にみれば、45才から50才代では「月経の手当」が70％を占めていたが、年令が低くなるにつれて次第にその割合も低くなり、他の内容へとひろがりをみせていることが知られる。

未婚者についても、「月経の手当」が44.3％、「体のしくみ」が30.9％、「男女のちがい」が15.1％、「妊娠の生理」が8.4％で、既婚者と同様の傾向を示し、既婚者、未婚者ともその大半は手当を教えられたにとどまっている。これは前年度の小・中学校の調査において把握したこととひとしく、思春期に入り女性としての変化のおこる大切な時期に、的確な教育を与えられていなかったと推察されるものであり、既婚者、未婚者の母親が、子供に対する教育の機能を充分に発揮していなかったと思われることと共に、検討を急がねばならないことのひとつであると考える。

月経のしくみについて正しい知識をもっているかどうかをみれば、既婚者では35.6％が正解であり、これを年令階級別にみると、20才代から34才代が40％台、35才代から39才代が30％台、40才代から49才代が20％台、そして50才が10％台と、年令が高くなるにつれて正解の数が少くなっていて、若い年代層の知識の数が高くなっていることが知られる。

ところが未婚者については正解が24.9％と既婚者より少なかった。この内訳をみると中学生では13.6％、高校生が35.7％、その他の未婚者が54.1％と、既婚者とは逆に年令が高くなるにつれて正解が多くなっている。

全くわからないというのは、既婚者、未婚者いづれも30％台であるが、既婚者では45才から49才が45.6％、50才が61.3％の者がわかっておらず、未婚者では中学生の半数がわからないでいる。

2. 貧　　血

未婚者について朝食を食べないものが99人5.5％あり、時々食べるのが222人、13.5％あった。この「朝食をたべない」「時々たべる」の割合は年令の高くなるにつれて高くなっており、その他の未婚者では両者あわせて34.8％を占めている。

貧血について間違っている項目を正しく答えたのは、既婚者では正解が8.1％、未婚者では5.4％しかなかった。これは設問の仕方に問題があったのではないかとも考えられたが、しかし地域では脳貧血を貧血と思っている人がかなりあるとのことであり、必らずしも回答の思いちがいとばかりはいえないようである。

3. 風　　疹

妊婦が風疹にかかればどうなるかについては、正解が既婚者は68.5％を占め、未婚者は83.2％と、その知識は高かった。既婚者の年令別では34才までの年代では80％台、45才以上では30％台の正解であった。近年中学生に対する予防接種が実施されたこともあってか、風疹の知識は普及されていたとみられる。しかしわからないという者も既婚者では22.6％、未婚者では10.4％あった。

4. 妊娠、出産

妊娠して一番最初に気がつくことをあげた項目二つをあわせれば、既婚者では「月経が止る」というのが43.7％あった。また「つわり」と答えたのは28.2％、次いで「食物の好みが変る」が8.7％あり、この質問に対する既婚者の回答の多くは体験によるもののように思われた。

未婚者も同様に「月経が止まる」が43.0％、次いで「つわり」となっていて32.9％であったが、次に「体温が変化する」をあげている。これを対象別にみると、3位に「体温」をあげていたのが高校生とその他の未婚者であり、中学生は「食物の好みが変わる」をあげていた。

妊娠、出産について既婚者が専門家に教えてもらったのは79.4％あったが、これを年令別にみれば39才未満では80％をこえていた。40才以上では70％台である。その中で最も詳しく教えてくれた専門家としては保健婦の35.8％があげられ、次いで助産婦であり、青森県では保健婦、助産婦が地域の教育の中心となってきたことが理解される。年令別にみれば、40才以上では助産婦によるものが多く、特に45才以上では半数をこえて助産婦にたよっている。39才未満では保健婦の割合がふえてきている。医師による教育は前回調査でも今次調査でも少なかった。

これらの既婚者が妊娠、出産について専門家から教えられた時期は、妊娠後が69.3％で、妊娠前に教育をうけたものは極めて少なかったことも、前回調査による各領域の若い年代層に対する働らきかけの乏しいことを裏づけており、若い対象の把握と教育の時期、内容が再検討されねばならないと考える。

しかしながら年代別にみると50才代では83.8％が妊娠後の教育であったものが、20才から24才代になると、54.2％と妊娠後の教育の割合が少くなって妊娠前の教育へと移行していることは、まだ不充分といいながらも母親教育の浸透度がうかがわれ、今後の母親教育に期待していきたい。

Ⅲ　子に対する母親教育

1. 自分の子に対して

女性として成長しはじめる時期に母親から教育をうけることに乏しかった既婚者達は、自分の子に対してはどのようにしているであろうか。

自分の男の子に対して妊娠、出産を教えていたものは、男の子のいないもの、回答のなかったものを除いた1,042人のうち僅か54人、5.1％より教えていなかった。教えた時期は2才から23才にわたっている。自分の女の子に対して月経について教えたものは、女の子がいないもの、回答のなかったものを除いた1,080人中、教えたものは378人、35.0％であった。その年令は3才から20才にわたっている。

このように既婚者は、成育の過程で自分の親か

らも教えられていなかったと同様に、自分の子供にも教えていない姿がうかがわれたのである。

2 子と親の対話

未婚者の側では性の問題について親との対話をしていると考えているであろうか。性の問題について母親に話せるかについては、「話せる」が14.1％で、「話せない」が46.1％、「どちらともいえない」が39.6％である。これを対象別にみると、中学生、高校生、その他の未婚者の順に年令が高くなるにつれて母親との対話がある。「話せない」「どちらともいえない」についてはこの逆で、どちらも年令の低くなるにつれて高くなり、殊にも若い中学生が母親との対話ができないでいる問題は、関係者の考慮すべきことであろう。

父親に対しては母親以上であり、「話せる」というものが僅か22人、1.3％よりなく、「話せない」が85.6％、「どちらともいえない」が13％であった。これを対象別でみると、中学生の話せないが85.6％、高校生が88.8％、その他の未婚者が77.2％で、若い年代の父親との距離がうかがえる。

Ⅳ 既婚者にみる地域特性

各項目については各市町村とも同様の傾向を示した。しかし各項目毎の市町村別割合をみると若干の差のみられるものもある。

調査対象者に30才未満の若い層が多かったのは八戸市で68％を占め、この年代層が少なかったのは十和田湖町の10.5％であった。若い頃恋愛を望んでいたのは八戸市の85.8％、次が深浦町の85.0％であった。

月経についてはじめて聞いた年令は、12才までが深浦町の83.3％、八戸市が80.6％、他は凡そ50％台であった。月経の知識については、八戸市と深浦町が高く、低いのは六ケ所村であった。

風疹に対する知識は、八戸市が高く、貧血については階上町が高かった。

妊娠、出産について専門家から教えてもらったのはどの市町村も大差はないが、黒石市、深浦町が医師によるものが多く、階上町、八戸市は保健婦によるもの、脇野沢村、十和田湖町は助産婦によるものが多かった。妊娠、出産について妊娠前に教えられた割合の高かったのは五所川原市、八戸市であるが、他市町村と大きな差はみられない。

男の子に対して妊娠、出産を教えたのは五所川原市が他市町村より高く、女の子に対し月経について教えたのは五所川原市、六ケ所村、十和田湖町が高く、脇野沢村が著しく低かった。

各地域毎のこれらの特徴は、調査対象となった母親達の意識や習慣や、地域の立置条件や社会資源の有無、その他にかゝわることであるのかもしれない。それぞれにこうした特性をもちながらも、母親教育は年代を経るにしたがって少しづつ成果をあげてきている。

第3年次は更にこの地域での母親教育を、主として公衆衛生関係領域と教育関係領域との関連に焦点をおき、今後の方向をさぐってみたい。

Ⅴ 結　　語

現在の既婚者は幼児期から思春期への転機に際して、その母からの指導は極めて乏しかったといえる。既婚者のうけた母親教育は、学校時代には主として担任の先生であり、妊娠、出産については主として保健婦からうけている。しかも前者は主に月経の手当であり、後者は妊娠後においての教育が多い。既婚者達は正確な知識に乏しいこともあると思うが、過去に母親から教えられなかったと同様に、自分の子に対しても教えていないという循環が明らかになり、母親は学校の先生や地域の専門家に依存している実態が把握された。

未婚者は、殆どが恋愛による結婚を望んでおり、女性としての知識をうる年令も早くなっているが、母親から教えられたものが少なく、既婚者が子に対して教えていない実態を未婚者の則から裏づけている。これは母親のみのことではなく、父親に

ついてはもっと、未婚者達にとって相談の対象とはなっていないことが明らかになった。

しかしながら、調査対象者を年令階級別に検討したときに、年代が若くなるにつれてその知識は高くなってきているとみられ、母親教育は年を経るにしたがって浸透してきていると考えられる。本県の母親教育は、昭和40年以降に保健婦、養護教諭等専門家の確保をはかりながら、へき地対策の一かんとしてその展開をはかってきたのであるが、そのような母親教育の歩みの成果は今次調査結果からもうかがうことができた。

けれども急速に変化する社会の中で、子供達への教育を、親、専門家、行政ともどもに協力して一層の浸透をはかる必要がある。殊にも近年社会問題として浮びあがってきた、10代の妊娠、出産をめぐる問題や青少年の非行、あるいは親の子に対する暴力虐待をはじめとする育児の諸問題等、その基底には母子保健のかかわる問題があまりにも多い。自立した子、親、そして将来の老人を標榜するには公衆衛生の側からの、将来を見越した働きかけが必要である。　特に低年令層からの心身発達の諸段階に適合した母親教育の、具体的な体系を公衆衛生の側から早急に築きあげねばならないことが、この対象者側からの調査からも確認されたということができる。

第1表　調　査　対　象　数

（56年度青森県）

		八戸市4地区	深浦町	階上町	十和田湖町	脇野沢村	六ヶ所村	黒石保健所管内4町村	むつ市大平地区	五所川原市	計
未婚者	中学校	471	81	99	43	23	120	67	41		945
	高校		191	22	55		187	12		100	567
	その他	20		10	65	11		52			158
	計	491	272	131	163	34	307	131	41	100	1,670
既婚者		292	60	432	180	167	203	164		100	1,598
合計		853	332	553	343	201	510	295	41	200	3,268

第2表　月経についてはじめて聞いた年令

（既婚者）

	8才～12才	13才～15才	16才以上	計	平均年令	回答なし
20～24	104	12	0	116	11.3才	2
25～29	298	62	4	364	11.6	8
30～34	251	83	5	339	11.9	9
35～39	117	84	5	206	12.5	2
40～44	93	148	21	262	13.2	9
45～49	51	132	41	224	13.9	13
50～51	6	30	7	43	14.2	1
計	920	551	83	1,554	12.7	44
率	59.2％	35.4％	5.3％	100％		

第3表　月経についていちばん詳しく教えてくれた人

	母親	担任の先生	友達	医師	保健婦	助産婦	看護婦	養護教諭	その他	計	回答なし
既婚者	230	728	241	4	54	4	0	226	77	1,565	33
	14.6%	46.5%	15.3%	0.2%	3.4%	0.2%	0%	14.4%	4.9%	100%	
未婚者	224	105	173	0	15	0	1	1,077	61	1,656	14
	13.5%	6.3%	10.4%	0%	0.9%	0%	0%	65.0%	3.6%	100%	

第4表　月経について正しいと思う答

	これから卵が出る前ぶれ	目下排卵中であることのしるし	2週間ほど前に卵が出たしるし	わからない	計	回答なし
既婚者	309	223	561	481	1,574	24
	19.6%	14.1%	35.6%	30.5%	100%	
未婚者	144	484	416	621	1,665	5
	8.6%	29.0%	24.9%	37.2%	100%	

第5表　妊婦が風疹にかかればどうなるか

	妊娠しなくなる	先天異常の子供が生れる	腎臓が悪くなる	目や耳に障害がおこる	わからない	計	回答なし
既婚者	44	1,061	16	76	351	1,548	50
	2.8%	68.5%	1.0%	4.9%	22.6%	100%	
未婚者	23	1,383	31	50	174	1,661	9
	1.3%	83.2%	1.8%	3.0%	10.4%	100%	

第6表　貧血について間違っていると思うもの

	栄養のとり方によっておこる	やせるために食事制限するとおこる	妊娠中毒症や病気をおこしやすい	朝礼時に倒れることが多い	妊娠中だと胎児に影響	計	回答なし
既婚者	277	433	319	110	216	1,355	243
	20.4%	31.9%	23.5%	8.1%	15.9%	100%	
未婚者	156	336	803	87	221	1,603	67
	9.7%	20.9%	50.0%	5.4%	13.7%	100%	

既婚者のみ50歳までを対象

母親教育実施状況調査票

	青森県	昭56
1. あなたの年令　昭和　年　月　日生（満　才）	1	2
2. すんでいるところ　市町村	3	4
3. あなたは、若い頃どんな結婚をのぞみましたか、どれか1つに○印をつけて下さい。 ① 見合い　② 恋愛　③ 親だけがきめた結婚 ④ 相手をえらばない結びつき　⑤ 結婚したくないと思った	5	
4. あなたは、結婚前にこどもは何人位ほしいと思っていましたか。 ＿＿＿＿人	6	7
5. あなたは、何才で結婚しましたか。 ＿＿＿＿才	8	9
6. あなたは、いままで何回お産しましたか（死産の数も含む）。 ＿＿＿＿回	10	11
7. 昔、月経について始めて聞いたのはいくつのときでしたか。 ＿＿＿＿才	12	13
8. 月経について、一番くわしく教えてくれた人は誰でしたか、1つに○印をつけて下さい。 ① 母親　② 担任の先生　③ 友達　④ 医師 ⑤ 保健婦　⑥ 助産婦　⑦ 養護教諭 ⑧ その他（具体的に書いて下さい）［　　］	14	
9. その時教えられた内容は何んでしたか、○印をつけて下さい。 ① 月経時の手当　② 体のしくみ　③ 妊娠の生理	15	16
④ 男と女のちがい	17	18
⑤ その他（具体的に書いて下さい）［　　］	19	20

10. 月経について正しいと思う答はどれですか、1つに○印をつけて下さい。

① これから卵がでる前ぶれである
② 目下、排卵中であることのしるしである
③ 2週間ほど前に卵がでたしるしである
④ わからない

21

11. 妊娠して一番最初に気がつく徴候を2つえらび○印をつけて下さい。

① おしっこが近くなる　② つわり　③ 乳頭に変化がでる
④ 足がむくむ　⑤ 食物のこのみが変わる
⑥ おなかが大きくなる　⑦ 貧血がおこる　⑧ 月経がとまる
⑨ 体温が変化する　⑩ 顔つきがかわる

22　23

12. 妊婦が風疹にかかればどうなるでしょう、正しいと思うものに1つ○印をつけて下さい。

① 重症だと妊娠しなくなる
② 先天異常のこどもが生れる危険性がある
③ 腎臓がわるくなる
④ 目や耳に障害がおこる
⑤ わからない

24

13. 貧血について間違っていると思うものに1つ○印をつけて下さい。

① 貧血は栄養のとり方によっておこる
② やせるために食事を制限すると貧血になる
③ 貧血があれば妊娠中毒症や病気をおこしやすい
④ 貧血があれば朝礼のときなど倒れることが多い
⑤ 妊娠中に貧血があれば胎児の成長に影響がある

25

14. あなたは、妊娠、出産について専門家に教えてもらいましたか。

① 教えられた　② 教えられなかった

26

15. それをいちばんくわしく教えた専門家は誰でしたか1つに○印をつけて下さい。

① 医　師　② 保健婦　③ 助産婦　④ 看護婦
⑤ 保健室の先生

27

⑥ その他（具体的に書いて下さい）

16. あなたは、妊娠、出産について、専門家からいつ教えてもらいましたか。

① 妊娠する前に教えられた

② 妊娠した後に教えられた

28

17. あなたは、自分の男の子に対して妊娠、出産について教えましたか。

① 教えた　②教えない　③ 男の子がいない

29

④ 男の子が何才頃、どんな内容で教えましたか

満＿＿＿才頃

30　31

（内　容　　）

18. あなたは、自分の女の子に対して月経について教えましたか。

① 教えた　② 教えない　③ 女の子がいない

32

④ 女の子が何才頃、どんな内容で教えましたか。

満＿＿＿才頃

33　34

（内　容　　）

19. これからのこども達の性の問題で不安に思っていることがあったら書いて下さい。

（　　）

20. あなたはこれからのこども達に結婚、妊娠、出産に関することで、下記の専門家がどんなことを教えてくれればよいと思いますか書いて下さい。

保　健　婦（　　）

医　　師（　　）

助　産　婦（　　）

学校の先生（　　）

未婚者を対象

母親教育実施状況調査票

	青森県	昭56
1. あなたの年令　昭和　年　月　日生（満　才）	1	2
2. ①　中学生　②　高校生　③　大学生　④　その他	3	
3. すんでいるところ＿＿＿＿＿＿市町村	4	5
4. あなたは、どんな結婚をのぞみますか。 ①　見合い　②　恋　愛　③　親だけがきめた結婚 ④　相手をえらばない結びつき　⑤　結婚しない	6	
5. 将来結婚したら炊事をどうしたいと思いますか。 ①　自分が受もつ　②　夫が受もつ　③　共同でする ⑨　わからない	7	
6. あなたは、こどもが好きですか。 ①　好きな方　②　きらいな方　⑨　わからない	8	
7. あなたは、将来こどもを何人ほしいと思いますか。 ①＿＿＿人　②　ほしくない　⑨　わからない	9	10
8. 朝食はたべますか。 ①　たべる　②　たべない　③　時々たべる	11	
9. 貧血について間違っていると思うものに1つ○印をつけて下さい。 ①　貧血は栄養のとり方によっておこる ②　妊娠中に貧血があれば胎児の成長に影響がある ③　貧血があれば妊娠中毒症や病気をおこしやすい ④　貧血があれば朝礼のときなど倒れることが多い ⑤　やせるために、食事を制限すると貧血になる	12	
10. 月経について、始めて聞いたのはいくつのときでしたか、それはどんな時でしたか。 （＿＿＿＿＿＿才）	13	

11. 月経について教えてくれた人は誰でしたか、教えてくれた人に○印をつけて下さい。

① 母　親　② 友　達　③ 担任の先生　④ 保健室の先生　[14] [15]

⑤ 保健婦　⑥ 看護婦　⑦ 医　師　[16] [17]

⑧ その他（具体的に書いて下さい）　[18] [19]

[20] [21]

12. 月経について一番くわしく教えてくれた人は誰でしたか、1人をえらんで下さい。

① 母　親　② 友　達　③ 担任の先生　④ 保健室の先生　[22]

⑤ 保健婦　⑥ 看護婦　⑦ 医　師

⑧ その他（具体的に書いて下さい）

13. くわしく教えられた内容はなんでしたか、教えてくれたものに○印をつけて下さい。

① 月経時の手当　[23] [24]

② 体のしくみ　[25] [26]

③ 妊娠の生理

④ 男と女のちがい　[27]

⑤ その他（具体的に書いて下さい）

14. 月経について正しいと思う答えはどれですか、1つに○印をつけて下さい。

① これから卵がでる前ぶれである　[28]

② 目下、排卵中であることのしるしである

③ 2週間ほど前に卵がでたしるしである

⑨ わからない

15. 妊娠して一番最初に気がつく徴候を2つえらんで○印をつけて下さい。

① おしっこが近くなる　② つわり　③ 乳頭に変化がでる　[29] [30]

④ 足がむくむ　⑤ 食物のこのみが変わる

⑥ おなかが大きくなる　⑦ 貧血がおこる

⑧ 月経がとまる　⑨ 体温が変化する　⑩ 顔つきがかわる

16. 妊婦が風疹にかかればどうなるでしょう、正しいと思うものに1つ○印をつけて下さい。

① 重症だと妊娠しなくなる

② 先天異常のこどもが生まれる危険性がある

③ 腎臓がわるくなる

④ 目や耳に障害がおこる

⑨ わからない

31

17. あなたは、男女の性に関することで、これからどんなことを教えてもらいたいですか、下記の人にのぞみたいことを書いて下さい。

父　親（　　）

母　親（　　）

学　校の先生（　　）

保健婦（　　）

医　師（　　）

18. あなたは、性の問題について母親にはなせますか。

① 話せる　② 話せない　③ どちらとも云えない

32

19. あなたは、性の問題について父親にはなせますか。

① 話せる　② 話せない　③ どちらとも云えない

33

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに

青森県における母親教育は、公衆衛生関係領域、教育関係領域を中心に、福祉、農林水産、労働、安全、司法、地区組織関係各領域に巾ひろく実施されていることが第1年次の調査で明らかになった。これは、母親ならびに母親予備軍に対して行った集団検診や個別指導以外の健康の教育のうち、母親教育であると意識して実施したものを、とらえたものである。各領域に、母親教育がひろがったのは昭和40年以降のものが多いのであるが、各領域間では労働、司法関係の実施が極めて少なかった。また、母親教育は直接母親自身に行ったものが多く、全体的に若い年代層への働きかけが少ないこと、また男子への教育に乏しいことなどから、低年令層からの一貫した教育システムの確立が必要であること等が把握されている。

このような実態を前提として第2年次である56年度には、母親教育を受ける側の人々の母親教育を受けた結果について把握しようとし調査を行なったものであるが、事後の母親教育システム化の検討にも備えて、県内67市町村の中から、八戸市の一部地域、深浦町、十和田湖町、階上町、六ケ所村、脇野沢村の一市、三町、二村を選定した。

またこの5市町村のほか、この調査に参加を望んだ黒石保健所管内4ケ町村と、五所川原市及びむつ市の一部を含んで実施した。調査内容は、前回は母親教育の現状を平面的にとらえたのに対し、今回は母親の母、あるいは母親と子との関係を縦の面からとらえたことと、主として妊娠、出産にかかわる性の問題に焦点をおき、年代による知識の変化や母の子に対する教育等を把握して公衆衛生領域の専門的働らきかけの方向をさぐろうとした。

調査は地域の妊婦教室、母親教室、未婚者学級その他の集団指導の機会を活用し、あるいは中・高校に依頼するなどして、調査票の記入を無記名で行ったものである。提出された調査票は、既婚者は1,598人、未婚者は1,670人、計3,268人であった。